

#### ■上西えりか（TLCCC 東京アンテオケ教会）

主の御名を賛美します。今回、2年連続でパトモスチームに参加する恵みを受けることができました。昨年初めてのパトモスチームでは、帰りのイスタンブール空港でクーデターに遭遇し、人生を大きく変えられ、献身が導かれました。

また、そのチームでは、パトモス滞在中にキーボードが故障してしまい、ウクレレの奏樂が用いられるきっかけとなった派遣ともなりました。その後の一年はさまざまな奉仕が開かれ、礼拝のピアノ奏樂の奉仕が与えられるようになり主のご計画に驚いています。

今回、再びパトモスチームに参加できることになり、「オーケストラとして個人としてウクレレ以外の楽器も持っていきたい！」と強い思いが与えられました。祈っていくうちに、第一歴代誌23章3～5節「レビ人のうち、三十歳以上の者を数えたところ」「私が賛美するために作った楽器を手にして、主を賛美する者となりなさい。」という2箇所が強く心に響きました。副リーダーの許可を頂き、ウクレレ・クラリネット・キーボードを持って参加することができました。

派遣中、ウクレレ以外の楽器の奉仕の予定はなかったのですが、パトモスでの路上ライブでクラリネットの奏樂をしていく中で、夜の聖会での、特別賛美のクラリネット奏樂奉仕が開かれ、聖会前の奏樂でピアノに合わせてクラリネットを演奏することができました。前半賛美、牧師賛美、特別賛美とたくさんの賛美の奉仕が与えられ、主が作ってくださった声をもって、楽器をもって賛美する喜びを改めて体験することができました。私自身、特に楽器や歌の技術もなく音楽的な才能もないので、オーケストラには所属していますが、賛美隊と自分はあまり結びついていませんでした。しかし、摂理を通し、み言葉を通し、今回の派遣と献身からの一年の歩みの中で、神様が私を賛美するものとして用いようとしてくださっていることを理解することができました。

パトモスでの祈り込みの時は、蜂が多かったり、日差しが気になったり、なにか別のことを考えたり、疲れてぼんやりしてしまったり、なかなか集中して祈ることができませんでした。祈りのために備えの祈りはして来ましたが、自分自身には祈る力は全くないこと、神様に聞き従う力もないと自分の弱さを痛感しました。

その中で、コロサイ人への手紙3章2節「あなたがたは地上のものを思わず、天のものを思いなさい。」が心に留まり、目に見えることに囚われ、歩んでいることへの悔い改めが導かれました。

今回のパトモスチームでは、永遠に向かって歩む、寄留者として生きることが語られていました。まだ自分の召しの全体像は見えていませんし、神様からの語りかけを聞き分ける力もなく、ただ神様の深い恵みのゆえにここまで歩んで来ることができました。

さらに主の恵みにより頼み、永遠にふさわしいものとして、リバイバルの働きに向けた備えをして行きたいです。教会を土台に、与えられている奉仕を全うし、感謝をもって何事も祈る、神の言葉に信頼して、日常のあらゆる場面で神様を選ぶ訓練を忠実にこなして行きたいと強く思われました。主に感謝します。

#### ■イスラエル木島

(TLCCC 名古屋教会)

パトモスチームのための皆さまのお祈りを感謝します。

今回は、出発前から個人的に祝福を受けましたので、まずはその証しをさせていただきたいと思います。

私は、会社員でフルタイムの仕事に就いています。その仕事の関連でコンテストに入賞できるようにと1年ほど前から祈っていました。今回の派遣では、成田で前泊するため、出発の前日に半日休暇を取得したのですが、私が会社を早退した直後に、上司からそのコンテストの入賞通知が届いたとの連絡がありました。それは最善のタイミングでした。会社員として約2週間も仕事を休むのは気が引けていましたが、その入賞通知が届いたことで、仕事をないがしろにして休んでいるわけではないことが、上司や仕事仲間たちにも伝わっただろうと思い、安心して出発することができました。主に聞き従う時、主は、仕事をも祝福してくださいました。

さて、チームの報告です。今回のパトモスチームでは、パトモス島のヨハネの洞窟近くの丘の上で祈る時が4日間与えられました。秋元牧師が熱中症になりかけたこともあり、涼しくなるようにお祈りしてくださったとのことで、非常に涼しい日が続き、快適にお祈りすることができました。主日礼拝の朝は、特に涼しく、早朝はホテルでも冷たい風が吹き、世界一と言われる風を実感することができました。主日礼拝も暑さから守られました。

また、ヨハネの洞窟近くの丘の上では、初日から蜂が飛び回っていましたが、秋元牧師がお祈りくださり、主日礼拝の日は、一匹も見かけませんでした。出エジプトに記載されている、ぶよや、かえるをコントロールされたのと同じような主の奇跡を見せていただきました。またその日の夜のレストランでは、秋元牧師たちのテーブルには多くの蜂が寄って来て、お店の方に虫除けをたいてもらったほどでした。祈った場合と祈っていない場合の神さまの働きの明らかな差を見ることができました。

主日礼拝では、ヘブル書11章16節「しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。」から、主題は「永遠」であること、永遠に備えて進むように語られました。そして永遠に備えるポイントは、人生のポイントはこの世には無く、天国が土台であること、主の御心を行うことであるとのメッセージが語られました。創世記でアダムとエバが神のことばを信じず、従わなかった結果「死」が入り、黙示録では、聖徒たちが、神のことばを信じ従った結果、永遠へ続く扉が開かれたことが語られました。黙示録は「永遠を開く扉である」ということばが特に印象に残りました。

パトモス島では毎晩、夕食の前後に路上ライブを行いました。チームの小学生の男の子は賛美やダンス、ウクレレを披露し、お店の人からプレゼントを頂く、また、聞いている方々からハグされるなど、大好評でした。賛美は、食事している方々などが聞いてくださり、撮影や録音している方もいらっしゃいました。特に現地の子供たちは、とても近くに寄って来て、楽しそうに聞いてくれました。賛美隊としてパトモスの地に立てたことを感謝します。

また、コリントでは例年非常に暑く、40℃前後になるところ、今年は何と22℃！とても涼しく快適に礼拝することができました。秋元牧師をはじめ、皆さんの執り成しのお祈りが聞かれ、主の奇跡が成されました。これまで何年もコリントで礼拝してきましたが、こんなに涼しい日は無かったとのことです。また、礼拝場所には、今年初めてベンチが並べられており、私たちはゆっくりと礼拝することができました。主の細かな配慮と愛を感じる出来事でした。